



アンサンブル



2025.1.29

No. 21

テストによって測ることのできない力

3学期、1年間をしめくくる学期を子どもたちは過ごしています。

先日も学習発表会があり、子どもたちは、1年間の学習のまとめ・自分の成長を堂々と発表しました。多数の保護者の皆様に参観していただき、ありがとうございました。子どもたちの今後の励みになりました。

さて、毎年3学期は、各教室ともに学習の成果を測るため、いわゆるテストの回数も多くなります。

人間の能力、実力には「テストによって測ることができるもの」と、「テストによって測ることができないもの」があります。

どちらが大切か、と言えば両方とも大切だと思えます。

しかし、「どちらか一つだけ」というなら、「テストによって測ることができないもの」を選ぶ人が多いのではないのでしょうか。

それは「テスト」が悪くても「テストによって測ることのできない力」をもった子ならいつかは克服をすることが可能だからです。小学生のころ、テストの点数が悪くても、あとになって伸びていったという子はいくらでもいます。お家の方も、小学生の同級生を思い起こした時に「思い当たる方」がたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。

「テストによって測ることのできない力」をもっている子なら、多少「ワンパク」でも大丈夫だと思っています。それよりも逆の場合が心配です。それは、「テストのよさ」によってはカバーしきれないものがあるからです。

では、「テストによって測ることのできない力」とは何でしょう。

それは、体験することによって身に付いていく能力です。例えば、目的を達成するまで工夫するという力です。いろいろな人の中では我慢しなければならないこともあるという体験です。自分のやろうとしていたことが達成できたときの喜びです。あるいは、思うようにならなかったときの悔しさです。

このような力は「テスト」だけでは得られないのです。一つ一つの体験の中で身に付けていくものです。

生活体験を豊かにするにはちょっとしたコツがあります。例えば、お使いをさせる場合にも、ただ「〇〇を買ってきて」と頼むのではなく、「一番安い所で」とか「新鮮なものをお願い」など一つの課題を与えるとよいと言われています。あるいは「二つの店を回って調べてから買ってきて」と頼むのもいいでしょう。つまりは、子どもたちの知的好奇心をちょっとくすぐってやるようなスパイスがあるとよいようです。

1人でお使いなんて、今の世の中危険でさせられないかもしれませんが、そのエッセンスを学びたいものです。